

# 平成29年度 第2回野生鳥獣被害対策本部会議実施内容及び議事概要

1 日時 平成29年10月26日(木) 午後12時30分から午後4時45分

## 2 場所

### (1)現地検討

- ・須坂市大谷地区、須坂市本郷地区、高山村鞍掛地区 広域防護柵  
集落におけるサル、イノシシ被害対策(複合電気柵の行政界を超えた連携、並びに  
関係機関による連携
- ・高山村奥山田 食肉加工施設「信州山肉プロジェクト」

### (2)会議

長野県庁議会棟 第2特別会議室

## 3 実施事項

### (1)現地検討

- ・須坂市大谷地区、須坂市本郷地区、高山村鞍掛地区 現地検討資料  
須坂市、並びに高山村の集落におけるサル、イノシシ被害対策(複合電気柵の行政  
界を超えた連携、並びに関係機関による連携について説明を受け、防護柵の構造、  
管理の状況等について質疑がなされた。

- ・高山村奥山田 食肉加工施設「信州山肉プロジェクト」 現地検討資料  
信州ジビエの食肉加工施設の状況として、加工施設内を見学、説明を受けな  
がら、食肉加工用の素材の入荷、加工する上での課題などの質疑が行われた

### (2)会議

- ・現地検討に関する意見交換 資料 1
- ・その他 資料 2

## 4 議事

事務局及び担当部局から、それぞれ資料等に基づき説明を行い、意見・質問を問うたところ、次のとおり意見・質問とそれに対する説明があった。

| 発言者    | 発言内容                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局    | ではただいまから、平成29年度第1回野生鳥獣被害対策本部会議を開催いたします。<br>本日の全体の進行を務めさせていただきます対策本部事務局の鳥獣対策・ジビエ振<br>興室の江住和彦です。よろしくお願いいたします。<br><br>会議に先立ち、副本部長の中島副知事からごあいさつをお願いします。                                                                                                                                           |
| 中島副知事  | 皆さまお疲れ様です。副知事の中島でございます。本日は天気の良い中、現地検討<br>のよいイベントになったかと思えます。<br>1件目の落石防止柵と電気柵の組合せについては、一物多役という視点から興味深<br>かった。<br>食肉加工施設の運営については、ビジネスとしては難しいが、生きがいとして取り組ま<br>れているという話に感銘を受けた。また、食肉として扱えるシカは少なく、捕獲技術が<br>重要とのことで、今後、捕獲者の技術を高めることが重要であると認識できた。本日は<br>そのような観点から議論ができればよいと考えます。<br>どうぞよろしくお願いいたします。 |
| 事務局    | ありがとうございました。<br>それでは、会議は、恒例により林務部長の司会で進めさせていただきます。<br>山崎部長よろしくお願いいたします。                                                                                                                                                                                                                       |
| 山崎林務部長 | 司会をつとめさせていただきます林務部長の山崎 明でございます。よろしく願<br>いします。<br>まずは本日の率直のご意見をいただきたいのでよろしくお願いいたします                                                                                                                                                                                                            |

|                                   |                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 観光部 信州<br>マーケティング<br>戦略担当<br>杉本参与 | 食肉加工施設については、今後、ユーザーと話す際にも役に立つという点で、今回現場を見ることができて良かった。捕獲技術が重要であるという点は印象的だった。個人で運営され、大量供給は難しいという食材固有の生産事情について、理解のある卸し先を選んで利用してもらうことが必要と認識できた。一方で、処理技術のボトムアップや、食材特性についての理解の醸成については、県として取り組んでいけることがあると感じた。ジビエがブームのようになっており、信州の食として県外へのアピールにも活用したい。  |
| 佐藤鳥獣対<br>策・ジビエ振興<br>室長            | 本日の施設では年間200頭程度の鹿を処理しているが、県内では処理頭数の多い施設でも400頭程度。安全少量を供給するというのが長野県の考え方。信州ジビエについては、県外に売り出すよりも、ぜひ県外から食べに来てほしいと考えている。やる気ある事業者の技術の向上については、来年度に向けて検討しているところ。                                                                                          |
| 農政部<br>吉田企画幹                      | 防護柵は、地域の理解を得て、事例研究もして取り組まれた大変いい事例。交付金の有効活用のため、先進事例として紹介していきたい。                                                                                                                                                                                  |
| 健康福祉部<br>小平課長補佐                   | ジビエ加工における衛生的な食肉の供給に向け、疾病排除の観点から、アクションが必要と認識しているところ。                                                                                                                                                                                             |
| 中島副知事                             | 本日視察した防護柵は、落石防止と獣害防除を兼ねるものであったが、獣害防止柵にその他の役割が想定できるか？                                                                                                                                                                                            |
| 農政部<br>吉田企画幹                      | 物理的には、本来の獣害対策以外の役割を想定することは難しいが、地域の協働に向けた意識づけにはなり得る。                                                                                                                                                                                             |
| 佐藤鳥獣対<br>策・ジビエ振興<br>室長            | 山と里を分ける境界という位置づけが可能であり、柵を越えたら野生動物の生息域と認識するための目印となり得る。                                                                                                                                                                                           |
| 中島副知事                             | 防護柵の多様な意義について、地域へも説明できるといい。建設部サイドの事業や取組で獣害防止に活用できるものはあるか？                                                                                                                                                                                       |
| 建設部<br>川住課長補佐                     | 落石防止と獣害防除を兼ねた施設は初めて見た。連携による取組事例はほとんどないと思う。建設事業で同様の取組を行うことは難しいが、落石防止などの本来目的からはずれなければ連携は可能。                                                                                                                                                       |
| 中島副知事                             | 今後、落石防止の施設などを設置する際には検討していただきたい。                                                                                                                                                                                                                 |
| 警察本部<br>金子生活安全<br>企画課長            | 話題のジビエカーについて、銃の保管庫を備え付けたいという趣旨で、車両の構造に関する相談を受けている。加工処理施設はジビエカーとの連携が重要と認識しているので、検討したい。                                                                                                                                                           |
| 佐藤鳥獣対<br>策・ジビエ振興<br>室長            | ジビエカーという言葉は、車両ひとつで食肉加工処理が完結するとの誤解を与えるため、当室では「移動解体処理車」という呼称を使用している。<br>車両の導入にあたり一番のネックは、1,500～2,000万円という価格である。ペイさせるためには年間500～600頭の鹿を処理する必要があると言われるが、県内施設でその規模を処理しているところはない。<br>来年度、長野市が中条地区に処理加工施設を設置する予定であるが、その取組を支援する中で、効果的な車両の活用方法についても検討したい。 |
| 中島副知事                             | ジビエ振興にあたっては、捕獲技術の高いハンターの育成が必要ではないか。                                                                                                                                                                                                             |
| 佐藤鳥獣対<br>策・ジビエ振興<br>室長            | 県内でシカの捕獲が難しくなっている状況も踏まえ、本年夏より捕獲手法に関する検討会を開催するとともに、来年度に向けては、高度な技能を有するハンターの育成についても検討しており、その技術はジビエの高品質化にも有効と考えている。                                                                                                                                 |

|                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中島副知事          | 高度な捕獲技術に対して、何らかの形で認定や資格などを与えられるとよい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 佐藤鳥獣対策・ジビエ振興室長 | 過去にはジビエハンターの育成に取り組もうとしたこともあったが、ハンターは自身の技術に自信を持った一本気な方も多く、他人から技術を教わろうという意識が低いため、容易ではなかった。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 山崎林務部長         | 大間のマグロがブランド化に成功したのは、漁獲後の処理技術を定着させたことが大きい。捕獲直後の処理によって、肉の品質は大きく異なる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 中島副知事          | 農水省の捕獲補助金において、ジビエ向けに適切に処理された個体については補助金額を高く設定することなどを検討してもいいのではないか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 佐藤鳥獣対策・ジビエ振興室長 | 農水省の予算要求においても、そのような検討が行われているところ。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 山崎林務部長         | 続きまして、<br>(2)「その他」について事務局から説明をお願いします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 佐藤鳥獣対策・ジビエ振興室長 | 本県では、4年毎にツキノワグマの大量出没が発生しており、来年平成30年度が4年目にあたる。そのため、2月に開催予定の対策本部会議では、クマの大量出没を議題とし、関係部局での協力をお願いしたい。<br>なお、事務局で検討した協力をお願いする事項の例については次のとおりです。<br>観光部…観光客への注意喚起や情報提供。エサやりやゴミ捨てに関する普及啓発。<br>建設部…クマ等の移動経路となっている河川沿いの環境整備。<br>教育委員会…クマとのかかわり方に関する学校教育。<br>環境部…クマの出没予測モデル。<br>農政部…被害対策の早期実施。<br>林務部…森林における緩衝帯整備、ドングリの豊凶調査、クマ対策員による集落の弱点の洗い出し。<br>また、信州ジビエの認知度向上に向け、銀座NAGANOでの「信州魅力発見café」など各種イベントを実施しているところで、11月には県立歴史館の笹本先生にお願いしている。 |
| 山崎林務部長         | 信州ジビエキャンペーンでは、名古屋や東京の人気レストランにおける信州ジビエの提供が好評を博し、提供期間が延長されたり、信州ジビエをストーリー性と併せて提供できたなどの声をいただいた。11月15日からは狩猟がスタートするので、ぜひ街中の食べ歩きなどで信州ジビエをお楽しみいただきたい。<br>クマについては、仮に大量出没が発生したとしても事故が起こらないよう取り組みたい。                                                                                                                                                                                                                                   |
| 環境部<br>若林企画幹   | クマの大量出没に関するモデル検討は進めており、今後も情報収集をしながら取り組みたい                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 中島副知事          | クマが大量出没するのであれば、マイナスをプラスに転換するという視点から、積極的に食肉利用するという方向も考えられないか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 佐藤鳥獣対策・ジビエ振興室長 | シカやイノシシについては、捕獲が不可欠という共通認識から、ジビエ利用に対する理解も定着してきたところ。クマについては、一般の方の感情という観点から非常にセンシティブな動物であり、食肉利用にあたっては、強い反発も想定される。                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 中島副知事          | 11月21日の信州魅力発見caféでは県立歴史館笹本館長がゲストで、テーマが「肉食と諏訪の信仰」とあるが、どのような内容でお話しをされるのか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 佐藤鳥獣対策・ジビエ振興室長 | 諏訪大社が鹿食免により鹿肉食を認めてきた文化があり、諏訪はジビエ発祥の地とも言える。そのような内容を掘り下げていかれるものと考えている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

|                |                                                                                                       |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中島副知事          | 次回会議のゲストスピーカーとしてお話しいただくなどして、対策本部メンバーにも情報共有していただきたい。<br>今回見てきたことを今後の対策に活かしてもらいたい。例えば衛生管理の研修などもどうかと考える。 |
| 佐藤鳥獣対策・ジビエ振興室長 | 良い肉を供給していくには、ハンターの技術も重要であり、それらについては現在検討会議などでも検討を進めており、良いものを供給したりできるスキルと仕組みを考えていきたい。                   |
| 山崎林務部長         | ありがとうございます。これで会議は終了したいとも思います。                                                                         |
| 事務局            | 部長ありがとうございました。これで第一回野生鳥獣被害対策本部会議を終了させていただきます。                                                         |

## 5 閉会